

東京都多摩ニュータウン愛宕団地に平成二四年三月にオープンしたリハビリデイサービス「笑う門」は、団地一階の商店街の空き店舗を利用したリハビリ特化型の小規模デイサービスだ。「笑う門」では、リハビリ以外の時間は主にレクリエーションを行っているが、この時間も含めて利用者に満足に過ごしてもらいたいと考えている。また、地域とも繋がりを持つていきたいと考えている。

そこで、「笑う門」と本学人間福祉学科、多摩大学経営情報学部の三者が連携し、デイサービスのプログラム開発を目指したプロジェクトをスタートした。多摩大学は「笑う門」の近隣に所在し、経営学が専門であることから、本学の福祉の知識と多摩大学の経営の知識を合わせることにより効果的なプログラムを提供できるとの期待から連携した。学生たちはまず、「笑う門」で実習を行い、プログラムや利用者の状況等について情報収集を行った。



プロジェクト概要

- テーマ
デイサービスの新しいプログラムを提案、実施する。
- パートナー
リハビリデイサービス「笑う門」
多摩大学 経営情報学部
- 担当教員
西口 守 教授
(現代生活学部人間福祉学科)
- 担当学生
飯野 藍子、栗原 千穂、越川 紗姫
(人間福祉学科4年)
- 実施期間
平成24年8月～平成25年3月

実習を経た後、プログラム案を作成し、具体的なプログラムに落とし込むべく検討と調整が続いている。

学生たちは、「福祉施設と地域の繋がりに目が向くようになった」「飯野 藍子さん」と視野の広がりを実感しているほか、「福祉施設に異なる学部の学生が入ってくることに意味がある」「越川 紗姫さん」と大学間連携の可能性も感じている。さらに、「こういうデイサービスのあり方もあるのか」「栗原 千穂さん」と進路を考える契機になったという。

本連携は、今後も継続し、プログラムを実施することを目指す。

二つの大学とリハビリデイサービスの連携の始まり

情報収集を経て、プログラム開発、実施に至るまで

福祉と経営、二つの視点で デイサービスの新たな可能性を探る

大学間連携によるリハビリ特化型デイサービスとの連携プロジェクト

